

Mémoires 2020

有馬記念

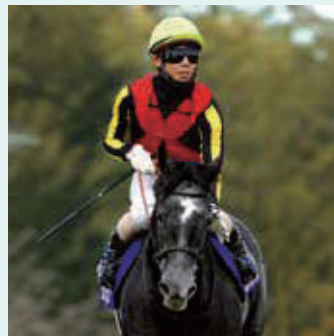
第65回有馬記念(GI)優勝馬 クロノジェネシス



激闘を制し、新女王の座へ



▲外からまくり気味に動いたクロノジェネシス(帽色・黄・右)は、フィエールマン(帽色・橙)に馬体を併せに行く。



▲クロノジェネシスの鞍上の北村友一騎手は、有馬記念を初騎乗で初制覇。

芦毛の新女王が同一年に宝塚記念と有馬記念を制して「牝馬の年」を締め括った。

女王アーモンドアイがターフを去り、コントレイルとデアリングタクトも休養へ。ジャパンカップの上位3頭は不在となったが、それでも8頭ものG I馬が顔を揃えた暮れのグランプリ。天皇賞(春)連覇を果たしたフィエールマンを抑えて1番人気に推されたのは、牝馬のクロノジェネシスだった。宝塚記念は6馬身差の衝撃的な圧勝。有馬記念史上最多となる21万4742票を集め、堂々のファン投票1位での出走となった。

3歳馬バビットの逃げで淡々と進んでいたレースが動いたのは、向正面の中ほどだった。中団後方を追走していたクロノジェネシスが外からぐんぐん進出。これがラストランとなるラッキーライラックを交わし、悲願のG I制覇を目指すカレンブーケドールに並びかけ、抜群の手応えで先頭に迫りながら4コーナーを回った。

直線、2番手から抜け出したフィエールマンがバビットを交わして先頭に立つ。これに外から迫るクロノジェネシス。真っ向勝負の追い比べは、坂が上がった残り100mでついに均衡が崩れ、クロノジェネシスが力強く前に出た。後方からはエリザベス女王杯2着のサラキアが凄まじい勢いで伸びてきたが、この追撃をクビ差抑えたところがゴールだった。

クロノジェネシスの鞍上の北村友一騎手は、有馬記念初騎乗で初制覇。最後は大激戦となったが「差されるとは、まったく思っていませんでした」と、ゴール前のパートナーの頑張りを笑顔で振り返った。

斉藤崇史調教師もまた、管理馬を有馬記念に出走させるのはこれが初めてだった。38歳3ヵ月29日は、グレード制導入後の有馬記念優勝調教師の最年少記録。クロノジェネシスの馬体重は天皇賞(秋)から10kg増だったが、「太め感はなかったし、精神的に凄く成長してくれました」と愛馬の逞しさを称えた。

同一年に宝塚記念、有馬記念を制覇した馬は前年のリスグラシューに続く史上11頭目、牝馬では2頭目の快挙。また、これで2020年の古馬による芝の牝牝混合G Iは、全10レース中、天皇賞(春)を除く9レースで牝馬が勝利。牝馬の活躍が目立った一年を象徴するような結果となった。

第65回有馬記念(GI)

12/27 中山競馬場 2500m(芝・右) 晴・良 16頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	クロノジェネシス	牝4	55	北村 友一	斉藤 崇史	2:35.0	①	12 12 3 3
2	サラキア	牝5	55	松山 弘平	池添 学	クビ	①	13 13 12 12
3	フィエールマン	牡5	57	C.ルメール	手塚 貴久	クビ	②	2 4 2 2
4	ラッキーライラック	牝5	55	福永 祐一	松永 幹夫	2 1/2	④	9 9 7 5
5	ワールドプレミア	牡4	57	武 豊	友道 康夫	1/2	⑤	5 5 10 12
5	カレンブーケドール	牝4	55	池添 謙一	国枝 栄	同着	③	8 5 3 3
7	ベルシアンナイト	牡6	57	大野 拓弥	池江 泰寿	アタマ	⑫	9 9 10 9
8	クレッシェンドラヴ	牡6	57	坂井 瑠星	林 徹	1 1/2	⑫	5 5 7 9
9	オセアグレイト	牡4	57	横山 典弘	菊川 正達	クビ	⑮	5 5 7 8
10	ラヴズオンリーユー	牝4	55	M.デムーロ	矢作 芳人	クビ	⑥	9 9 10 9
11	ユーキャンスマイル	牡5	57	岩田 康誠	友道 康夫	3	⑬	15 14 16 15
12	キセキ	牡6	57	浜中 俊	角居 勝彦	1/2	⑧	14 14 6 5
13	バビット	牡3	55	内田 博幸	浜田多美雄	2	⑩	11 11 11 11
14	オーソリティ	牡3	55	川田 雅将	木村 哲也	1	⑦	2 2 3 5
15	モズベッコ	牡4	57	田辺 裕信	森田 直行	7	⑭	15 16 14 14
—	ブラストワンピース	牡5	57	横山 武史	大竹 正博	競走中止	⑨	2 2 14 16

単勝 ⑨250円 複勝 ⑨130円 ⑭770円 ⑮160円 枠連(5-7)380円
馬連 ⑨-⑭10,330円 馬単 ⑨-⑭11,360円 ワイド ⑨-⑭2,320円 ⑨-⑮270円 ⑮-⑭2,550円
3連複 ⑨-⑮-⑭7,370円 3連単 ⑨-⑮-⑭50,150円

ハロンタイム 6.8-11.8-12.2-12.5-12.8-12.9-12.8-11.8-12.3-12.1-11.9-12.6
通過タイム 700m ④43.3-900m ⑤55.8-1100m ①1:08.6-1300m ①1:21.5-1500m ①1:34.3-
1700m ①1:46.1-1900m ①1:58.4-2100m ②2:10.5-2300m ②2:22.4

優勝馬 クロノジェネシス

2016.3.6生 父バゴ 母クロノロジスト 母の父クロフネ
安平・ノーザンファーム生産 馬主:(有)サンデーレーシング